

# 04 一期一会

## 偶然開いた教科書 運命の出会い

Aragaki Tsutomu Success Story

今回のコンサートを企画・運営した吉田恵子さん。千厩町は、20年以上も新垣さんのファン。ずっと前から、この日を夢見ていた。だが、「いつか新垣さん呼びたい」という夢は、「いつか」のままだった。

そんな吉田さんを動かしたのは3年前、何気なく開いた長男拳さん（現高2）の英語の教科書（New Horizon）。「Try to Be the Only One」というタイトルで新垣さんの半生が取り上げられていた。「教科書で学んだ新垣勉さんから、直接歌とメッセージを受け取ることができたらどんなにいいだろう」。思いは高まった。「中2生に本物と出会わせたい」。動き出した吉田さん、コンサートの実現に向け、奔走する日々が始まった。

中学生といえば多感な年頃。楽しい時期でありながら悩み多い時期でもある。そんな彼らに吉田さんは、新垣さんの歌を通して「エールを送りた

震災が起きた。大船渡市内出身の吉田さん。巨大地震と大津波で古里は壊滅的な被害を受けた。

この頃、被災地を気遣う新垣さんは「今、自分にできることは何か」を自問自答していた。6月11日、新垣さんは大船渡市を訪れた。そして、東北地方太平洋沖地震の鎮魂歌「青い海よ」を披露、全身全霊の歌で被災地を励ました。

吉田さんは、母校末崎中学校の生徒たちに新垣さんの歌を贈りたいと思った。「ダメもとで頼んだ」吉田さんの思いに新垣さんは快く応えた。11月30日、末崎中学校でボランティアコンサートが実現、被災地に希望の讃歌が響き渡った。

ありのままの自分を受け入れ、自らの人生に責任を持って生きる新垣さん。その姿は、多くの中学生に勇気を与えた。吉田さんをはじめ実行委員会は、中学生だけでなく大人たちにもメッセージを込めた。「子供たちを育てるためには多くの目と手が必要。他の親、祖父母、地域、みんなの知恵や力を借りることが大切」と。両親さえも受け入れられなかった新垣さんは今、全ての人を受け入れている。彼の生き方から学ぶことは多い。

い」と思った。「みんなが幸せになつてほしい」と願った。

「千厩でのコンサートだったら実現は早いかもしれない」と言われ、千厩町教育文化振興会にお願ひに行った。振興会の主催で2010年10月、ついに千厩中学校でコンサートが実現。初めて生で聴いた新垣さんの歌に体が震えた吉田さん。あふれ出る涙をこらえることができなかった。

コンサートは好評だった。生徒も、父母も、教職員も、みんなが新垣さんのファンになった。

# 05 希望の光

## 大切なことは 人を受け入れること

Aragaki Tsutomu Success Story

「もっと、もっと多くの中学生に聴かせたい」

千厩中でのコンサート後、吉田さんは一関文化センターでのコンサートを企画する。友人や関係者に声を掛けると、たくさんの人たちが協力してくれた。たくさんの方の企業や商店が応援してくれた。そんな矢先、あの東日本大

東日本大震災以降、「生きる」とは「生きていく意味」とは「生き残ったからには」など、「生き方」、つまり、人生の「質」が問われている。

豊かな人生には、必ずドラマがある。ドラマは自らエネルギーを注ぎ込んでつくるもの。何かをやり遂げるために、一生懸命頑張る姿は、それだけで美しい。苦勞を乗り越え、前に進んでいく姿は、多くの人に勇気と感動を与えてくれる。そんな姿を見た人が、「次は自分」と一歩踏み出すことも少なくない。笑顔と涙は連鎖する。いい人との出会いは、自分の人生さえも変えてしまうことがある。

新垣さんの歌は美しい。彼が歌っている間、そこには上質な時間がゆつくりと流れていく。それは、新垣さんが素朴でやさしくて温かいからだ。新垣さんの歌を聴くと、新垣さんの話を聴くと、彼の歌を、声を、初めて聴いた人でも豊かな気持ちになれる。彼と初めて会った人でも前向きになれる。そして、彼を好きになる。

光のない世界に生きる彼は、星も月も見えない。だから彼は自ら光となつて、多くの人たちを照らしているのではないか、そう思えてならない。



## 新垣 勉さん

Artist Interview

### 人生は出会いで変わる オンリー・ワンの価値に気付いてほしい

目が見えないこと、両親が離別したことなど、少年時代の私は何もかもが嫌になりました。「自分には生きる価値があるのか」と自問自答する毎日でした。自分を受け入れることができるようになるまで、相当の時間がかかったことを覚えています。

でも、牧師をはじめ、人生の節目節目にいい出会いに恵まれました。そして、救われました。人生は出会いで変わります。人は会おう人で成長します。自分を肯定できるようになると、他人を受け入れられるようになります。親を恨んだり、許せなかったりした少年時代のことも、少しずつ受け入れることができるようになりました。

今年で歌手生活31年です。小中学生時代に聴いてくれた人たちが、今は

親になってわが子を連れてコンサートに来てくれます。本当にうれしいです。私は音楽を通じて only one（オンリー・ワン）のメッセージを届けたいと思っています。他人と比べて「自分には目立つものが何もない」と思わないでください。どんな人にも、その人にしかない素晴らしい only one があるのです。技術を持っているとか、能力が優れているとかじゃなく、人として存在していること、それ自体が大切なことなのです。「Doing」（何かをすること）ではなく、「Being」（存在そのもの）を大切に生きる方をしてください。

私は来年、還暦を迎えますが、あと20年は歌いたいと思っています。つえと言葉と信念があれば、どこにでも行けます。まだまだ歌うことができます。

## 吉田恵子さん

Staff Voice

### 地域が一つになって みんなで幸せになれる社会をつくろう

中学生の皆さんが熱心に鑑賞してくれました。うれしかったです。新垣さんのメッセージも届いたと思います。思春期に「いじめ」などの問題で悩んでいる子は多いです。いじめは、当事者だけでなく周りの子や大人まで不幸にします。中学時代は一番楽しい時期なので、「みんなで仲良く、楽しく過ごしてほしい」、そんな願いを込めて新垣さんのコンサートを開きました。

このコンサートの目的はもう一つあります。大人がスクラムを組んで子供たちをしっかり支えることができたなら、子供たちはもっと自由にチャレンジすることができると思います。ですから、大人の人たちには「横につながろう」と呼びかけたいです。親の言うことは聞かなくても、友達の親が言ってくれた

ら聞かなくていいです。たくさん目と手で子供たちを育てていたら、親も楽し、子供たちも楽しいはず。みんなで協力し合えば、親子関係も地域社会もきっとよくなります。それでたくさんの人たちに関わってもらいたくて、皆さんにカンパをお願いしました。自分だけ、自分の家族の幸せだけではなく、「みんなで一緒に幸せになる」地域づくりに貢献したいと思っています。

コンサートは、50以上の団体と150人以上の個人からカンパをいただくなど、たくさんの方に支えられて実現しました。16人のスタッフは「できる時にできること」を合言葉に心を一つにして頑張りました。支えてくれた全ての人に心から感謝します。来年もやりませ。皆さん、ぜひ応援してください。



## Yoshida Keiko

Profile よしだ・けいこ  
1956年大船渡市生まれ。93年結婚して一関市千厩町へ。2009年3月養護学校教諭を退職。その後、一関市内の学校でスクールカウンセラーを務めるなど、青少年の健全育成に尽力。千厩町千厩在住。夫、息子、義父、実母の5人暮らし、55歳。